

藤沢市社会教育委員会議
令和6年度12月定例会

議 事 録

日 時 2024年（令和6年）12月16日（月）
場 所 藤沢市役所本庁舎 8階 8－1・8－2会議室

令和6年度藤沢市社会教育委員会議12月定例会

日時： 2024年（令和6年）12月16日（月）
午前10時から

場所： 藤沢市朝日町1番地の1
藤沢市役所本庁舎8階 8-1・8-2会議室

1 開 会

2 議事録の確認

3 議題

（1）「生涯学習ふじさわプラン2026」の進捗管理について

4 報告

5 その他

6 閉会

(出席委員)

西村雅代・三宅裕子・沙田吉穂・新沼範之・平野まり・手塚明美・柴山弥生
稲川由佳・清水謙・鳥居恭好・三浦悠介・小笠原貢・西田智美・保川昌弘

(事務局)

横田参事・浅上主幹・守屋課長補佐・菅谷上級主査・渡邊職員

***** 午前10時00分 開会 *****

西村議長 これより社会教育委員会議12月定例会を始めます。前回に引き続き、
本日も会議の進行にご協力のほどよろしくお願いいたします。それで
は初めに、事務局から欠席委員の確認および会議の成立についてご
報告をお願いします。

事務局 藤沢市社会教育委員会議規則第4条の規定により、審議会の成立要
件として、委員の過半数以上の出席が必要とされておりますが、委員
定数15名に対し、本日の出席委員13名であることから会議が成立い
たしましたことをご報告申し上げます。欠席委員は大川委員です。

西村議長 本日、傍聴者はいらっしゃいますでしょうか。

事務局 いらっしゃいません。

西村議長 事務局より本日の資料の確認をお願いします。

事務局 (資料の確認)

西村議長 それでは議事に入る前に、11月定例会の議事録の確認を行います。

事務局 今回、議事録について修正のご依頼をお1人からいただいております、修正した形でお配りをしております。

西村議長 他の方で修正等、必要なことがあればお願いいたします。

手塚委員 気になったところが2つあります。10ページからの私、手塚の発言です。「減っていくことが、成果が上がったことを示している場合も考えられる」という記載があります。図書館のことが書いてある部分です。この後、「図書館行政の育成」という言葉に繋がっているのですが、ここは何か違うものの育成と考えているような気がします。事務局で録音を確認していただけると大変助かります。それからもう1ヶ所あって、その直後、引き続き図書館のことですが、図書館が指定管理になっているというくだりがあります。これは指定管理者ではなく、委託事業として、辻堂、湘南大庭、南市民図書館に入っているのです、修正していただけたらと思います。

西村議長 ありがとうございます。事務局は、手塚委員のおっしゃった部分は大丈夫でしょうか。

事務局 ご発言の内容を確認して修正させていただきます。

西村議長 それでは手塚委員の発言部分を修正した上で決定とさせていただいてよろしいでしょうか。

[異議なし]

それでは、事務局で修正の上、手塚委員に最終確認をしていただく形で確定をしたいと思いますので、よろしくお願いします。では、議事録

の確認につきましては、以上で終了したいと思います。

それでは議事に入ります。議題(1)「生涯学習ふじさわプラン2026の進捗管理について」でございます。これまで皆さんにたくさんの意見をいただき、前回につきましては、個別の評価ではなく、全体を通しての意見をまとめる形に修正したところでございます。まず事務局で、評価結果報告書の最終確認という形で作っていただきましたので、これに基づいて決めていきたいと思います。最終案として、委員の皆様にも事前にお送りしているかと思いますが、ご意見等あればそのままお伺いしたいと思います。全体の作りにつきましては、前回の最後に確認したように、個別の事業に対する意見を全て載せる形にはせず、全体を通してという形で、評価結果報告書という形にまとめたところです。わたくしが見る限りでは大変よくまとめられておりますので、皆様の目で再度見ていただきたいと思います。

なお、前々回にいただきました個別事業についてのご意見は、別紙という形で、各事業課にフィードバックするという形にいたしました。既に始まっている事業ばかりですので、ご意見の内容によってはなかなか反映できないものもあることから、最終年度に向けて、あるいは今後に向けての、ぜひ参考にさせていただきたいという形で整えております。簡単に言うと、報告書とは別に参考資料という形で、各課の事業、各事業へのご意見として進めてまいりたいと思います。進め方についてはよろしいでしょうか。

それではこれから評価結果報告書の最終案という形で、この内容に対して前文、基本目標、事業全体への評価の項目という形で進めてまいりたいと思います。

初めに、前文についてご意見がありましたらよろしくお願いいたします。

[意見なし]

では次に進めてまいりますので、また思い出したときに随時でも結構ですが、最後にも、もう一度ご意見があるか確認したいと思います。

次に基本目標1についてはいかがでしょうか。手塚委員お願いします。

手塚委員 文章構成はとてもよくまとまっていると思いましたが、(1)評価のアは「評価できる」、(2)課題提起のウは「行えるとよい」という書き方で、エの「終わってしまう」と、オの「取り組まないといけない」の書き方が、他と語調が違うようなイメージを受けました。確かに、この言い方で発言していたのだとは思いますが、全体のテイストから見ると少し違和感があります。中身について不足はありません。

西村議長 前回と違い、今度は発言した委員の名前が書いてないので、委員全体として、皆さんの意見という形ですね。言葉の終わり方として、このままではマイナスイメージのように聞こえてしまうのかと思いました。ご意見いかがでしょうか。

三浦委員 三浦です。オは私が喋った内容です。他の文章と揃えるのであれば、「取り組む必要がある」といった表現に変えてもよいと思いました。

西村議長 そこは「取り組む必要がある」ですね。そうするとエは「読まれずに終わってしまう懸念がある」でいかがでしょうか。では、うなずきも多かったので、そのように訂正をお願いします。全体のトーンとして、前向きなご意見が多いので、その部分を意識しながら修正したいと思います。

それでは基本目標1について、他にはいかがですか。

鳥居委員 事前にお送りいただいたものを画面で見ると、紙で見るとではやはり違うかなと思って拝見しています。同じページの(2)キですけれども、どうやら、これは9月の会議での発言をそのまま文字起こした様子ですね。内容については、大変納得できる、同意できるところですが、その経緯を知らない方が報告書だけで見ると、誰が何をしているかが若干わかりにくい表現かなという気がします。ですから、初見でスムーズに

入ってくるような整え方のほうがよいかなという意見です。(2)キについては、「広報ふじさわは、大変よく見ているという話も聞いている」という文章ですが、市民がよく見ているということですよね。

西村議長

確かに、文字になってみると違和感を抱く部分もあるかと思いますから、主語を入れるのはいかがでしょうか。

「市民の方々は、広報ふじさわを大変よく見ているという話も聞いている」でいかがでしょうか。他はいかがですか。思いついた内容がありましたら、後ほどお願いします。

続いて、基本目標2はいかがでしょう。

手塚委員

(2)課題提起のウに「毎年多くの人を新規参加者として集めるとなると、かなり大変だろうと思う」と書いてありますが、「大変だ」で言い切ってよいと思います。

西村議長

かなり大変だと言い切りますか。

手塚委員

「だと思う」にしましょう。「ろう」を取る形です。

西村議長

これは、話し言葉になっている形ですね。私も意見を言わせていただくと、アの最後ですが、「視点が必要」だと体言で止まっているので、「必要と思う」にしましょう。その他いかがでしょうか。

鳥居委員

大変細かい点で恐縮です。まず文末ですと、同じページの最後のキ、「存在しているだけの状態」と体言止めなもの、やはり、しっくり来ないと思います。「である」とか「見える」とかを加えた方がよろしいかと思います。それからもう1つ、(2)イの記載について、「市歌が発着メロディ」の

部分は、JR藤沢駅ですから、JRを加えた方がよろしいかと思います。

西村議長 JRの藤沢駅ですね。それからキについては、「状態に見える」にしましょう。

西田委員 (2)ウについてです。「毎年多くの人を新規参加者として」と書いてあるので、そのあとの「事業に来たことがある人」は、「参加したことがある」がよいと思います。「来た」では単なる来訪者という意味にも受け取れます。

西村議長 「来た」は「参加した」に変えるというご意見でよろしいですね。

手塚委員 話し言葉をそのまま記載したためだろうと思いますが、カの「プロのレクチャー」と書いてある部分は、専門家とかプロフェッショナルという言葉が適切かと思います。喋るときはもちろん「プロ」で構いませんが、文章ですから、記載を改めた方がよいかなと思います。

西村議長 「専門家」ですね。続いて稲川委員お願いします。

稲川委員 皆様が指摘されているのと同じようなことなので、ご覧になるとおわかりになるかと思いますが、(2)ウのところの、「リピーターとしてしっかり根付くことも重要」も、同じくここで体言止めになっているので、直していただければと思います。

西村議長 「重要と考えている」とします。

清水委員	清水です。(1)のイですが、藤沢に海があることがよいという内容では、事業評価でも何でもないので、藤沢の自然資本であるとか、例えば、海を活用した事業に特徴がある点は、藤沢らしさという点で特筆すべきであるとか、事業に関する話であると示すべきです。海が「特筆すべき」と言われても、あまりにも当たり前の話ですよ。この表現だけ、改めた方がよいかと思います。
西村議長	この書きぶりと言いますか、評価として、事務局としてはどのような意図だったかと捉えていますか。
事務局	自然の海を持つ市で、藤沢らしい事業を実施するという観点から特筆すべきことであるという意図だと推察しております。
西村議長	意味はよくわかりますが、実際に発言された方がどうおっしゃっていたか、すぐに思い出せません。いかがでしょうか。
三浦委員	前の資料を見てみたら、マリンスポーツ・ビーチスポーツの推進の文脈で、「藤沢市は自然の海を持つ市で、藤沢らしさという点では、とても特筆すべき」というような表現になっています。ですから、いわゆる海が活用できるまちということを表現したかったのかと思いますので、それが伝わる文言がここに入るとよいかなと思います。
清水委員	事業評価なので、仕組みを活用した、とか、効果的に取り組まれていることが評価すべき点、などといった形ですね。
西村議長	そのとおりですね。内容面で加筆をするべきところだと思います。なのでこの部分は、事務局でもう一度改めていただく形でよろしいでしょうか。

事務局 今のご指摘ですが、また他にご意見をいただいた部分もあわせ、修正をいたしますので、その後確認をしていただきたいと思います。

西村議長 「てにをは」を直すだけというよりも、文章の校正が必要になるかと思うので、お願いします。それでは基本目標2はよろしいでしょうか。

続きまして、基本目標3に移ります。

手塚委員 (2)課題提起のイで「各課との連携、それから企業や地域社会との連携」と書いてありますが、「各課との連携はもとより、企業や地域社会との連携」の方が読みやすいかなと思います。内容については、意見ありません。

西村議長 これもやはり、口語になっていますね。他にはいかがでしょうか。

三浦委員 全体を通して読んだときの印象の話ですけれども、(1)の評価が「概ね、基本理念・基本目標及び事業目的の実現に寄与したものと評価する」と、肯定的な内容として書かれていますが、(2)課題提起のアが、「突き合わせがうまくされてない」と、「整備されてない印象がある」という表現があるので、これが最初に来ると、少し相反するように見える気がしました。これ自体を変えるとか、割愛する必要はないと思いますので、順序を変えてエとオの間に入れるとか、そういう形にすると、少し読みやすくなるかと思います。ここに引っかかる方がなるべく減るとよいなと思います。

手塚委員 他の部分ですが、ウは「学んだことを地域還元するまでが生涯学習のサイクルと、様々な白書にも報告書にも書いてある。市民が学んだ成果を生かす仕組みを作らないといけないと思う」と、参照のように書いて

ある形ですが、このように書くと、他の人がそう言っているという印象になってしまうので、「この委員会としてそう思っている」と言わないといけないかと思います。ですので、皆さんのご意見を伺いたと思います。私としては、書いてあると伝えたくて、「私はそう思います」という意図でした。

西村議長

では、まず1つ目として、最初に「概ね、基本理念・基本目標及び事業目的の実現に寄与したものと評価する」と言っておきながら、課題がいくつか提起されている点について、これは矛盾のようにも見えますが、課題なので、あっても全く問題ないと思います。載せ方としては、例えばイを1番目に持ってきて、「各課との連携はもとより、企業や地域との連携があればさらに広がっていく」を1番に持ってくるのはいかがですか。そうすると「これからさらに」という方向性になるかと思いますが、いかがでしょうか。

清水委員

(1) 評価のところに小項目がないのは、個人のポジティブな評価がなかったためだったのでしょうか。もしそうなのであれば、課題提起の表現をマイルドにしたところで、そう変わらないかと思います。プラスの意見が現状ないのであれば、むしろ(1) 評価に小項目できちんと書き、バランスを取るのがよいのではないのでしょうか。プラスな意見が何かあったのでしょうか。

西村議長

基本目標3に対する評価は、あまり意見がなかったところですよ。ここは、事務局で拾い出せるものがあるのでしょうか。

事務局

前回までにいただいたご意見を整理してまいりましたが、この項目については「評価」に該当するようなご発言は確認できませんでした。改めて評価のところをご意見いただきたいとお願いした中でも、拾い出せませんでした。

三宅副議長

私が言ったことは、ネガティブな印象になってしまっていますが、意図と反対ですので、ネガティブな印象にならないような記載にしていいただければと思います。「実際にニーズがあるか、丁寧に突き合わせしていくことが望まれる。決まった方向性があり、そちらに向かっていくと取り組みに集中できてフィールドが広がってくると考える。そういったルートをきちんと整理していく必要がある」。ネガティブからポジティブな表現に変えていただければよいかと思うので、そうしてもらえますか。

西村議長

まず、基本目標3のところだけは高評価にあたる発言がなかったので、他の作りと変わってしまっている点です。それについては、もしこの場でご意見があれば付け加えることもできると思いますが、ない場合は、全体を概ね評価するという評価で留めてもよろしいかと思います。実際に、ここは皆さんの意見があまり出なかったですから。

新沼委員

「概ね問題ないが、これは」というような話の流れは、やはり記録にも印象にも残りにくいですね。概ねよいという部分は、この(1)評価でまとめて、個別の課題提起としては、ここをこうした方が、という意見があって、その結果がこのページだろうと思っております。課題提起が多く見えるというのは、別にあちこちから叩かれているというわけではなかったですね。

西村議長

では基本目標3については、問題提起の部分をもう少しマイルドにということですね。問題提起といっても、そんなに強いものでなかった印象です。これは絶対に改善した方がよいとか、ここを必ずこうしてほしいといった意見ではなく、むしろ、さらに良くするための提起が多かったと思いますので、表現を少し変えるという形でよろしいですか。では、これは次回に向けて、表現などを事務局とまた調整をさせていただき、進めていきたいと思います。よろしいでしょうか。

西田委員 話が戻ってしまいますが、(2)ウの「白書に書いている」という表現が、誰かが言っているように見えるというご意見についてです。私なりに考えると、その前の、「サイクルと」という表現は少し変だなと思っていたので、「学習サイクルであると考えられている」までで言い切って一文とする。これはいかがでしょうか。

手塚委員 まさにそのようなイメージです。

西村議長 ありがとうございます。先ほど手塚委員が、ご自分の発言で気になったところを指摘してくださいましたが、西田委員からもご提案がありましたので、ここの部分についても表現を変えるという形でお願いします。

手塚委員 ウについては、「市民が学んだ成果を生かす仕組みを作らないといけない」の部分も、既に仕組みを作っているところもありますので、「さらに」ですよね。

西村議長 「いけないと思う」というのが、少し強い表現ですよね。「望まれる」でいかがでしょうか。

口語体の多さはご指摘が多かったので、次回に向けまして、丁寧に確認をお願いします。私も電子データで見た際は何も気にならなかったのですが、改めて活字で見ると、見え方が違いますね。なので、少しずつ口語体を減らし、そしてどちらかというと、問題提起は、さらにこうしていったほしい、こうなるともっとよいという文章に直していきたいと思います。では基本目標3については、次回かなりの修正があると思いますが、よろしくお願いします。

続きまして、基本目標4はいかがでしょうか。

小さなことですが、課題提起のウが、これも最後「べき」で終わっていま

す。「思う」などに直した方がよいと思います。

手塚委員

基本目標3を直したときと同じで、この案は口語体がとても多いので、そこを多少整理して、同じように直していただければ、ここも読みやすく伝わりやすくなると思うので、その整理をしていただきたいと思います。

西村議長

事務局としては、発言に忠実に記載しようと気を付けてくれたのかと思います。ですから、今度は報告書としてまとめる上で、言い回しや体言止めを修正する形で進めていくことでいかがでしょうか。内容は皆さんで同意していただいたとおりかと思います。では同じ形で、基本目標4についても、細かなところをもう一度見直させていただきたいと思います。

それでは、事業全体に対する評価です。

鳥居委員

これも、紙で読んで改めて感じたことですが、事業全体に関する評価も、それから基本目標1から4に関しても、冒頭の評価の文章が同じですね。「基本理念・基本目標及び事業目的の実現に寄与したものと評価する」という形の文章です。これはテンプレートというか、失礼な言い方になるかもしれませんが、これを初めて読む方に対しては、同じ文章を切り貼りしている、決まりきった項目を並べている印象を与えかねないという危惧を感じました。参加してわかりましたが、これだけ多くの委員の皆さんが発言をなさって、有益な話ができている場です。ところが、このままではその印象を下げかねない気がします。どう直すかまで提案するのは難しいですが、これは内容、課題提起に応じて、少し冒頭の部分は手を加えた方がよろしいのではないかと思います。

西村議長

事務局お願いします。

事務局 ご指摘の趣旨としては、承知するところでありますけれども、その各項目に書かれている内容を拾いながらというのは、記述をどのような形でやっていくとよろしいのか、いささか苦慮するところではございます。

西村議長 急にお願いしたものですから、すぐには難しいですよ。

手塚委員 アイディアの1つだと思って聞いてください。私どももさまざまな文書を書くことがありますが、「基本目標1については」と書くとそれで終わってしまいますね。「基本目標1「学びたい思い」を支援する」は」と書くと、その「「学びたい思い」を支援する」という言葉に対する、何らかのアクションが欠けているんですね。もちろんここを2行で書かなければいけないのであれば、それは難しいかと思いますが、今回の場合は、数行加えても大きく影響しないでしょう。

 この部分を、学びたい思いに関して、委員の皆様からこんな意見があったとか、この事業に興味を持っていたとか、そのようなことも書いて評価する。――要するに、頑張って事業を進めていることへの感謝や、これで市民の学びたい思いがさらに強まることを期待するご意見が多かった、といった書き方をするとよいかと思います。鳥居先生のご指摘のように、実のところ、こういった報告書では同じ文章を配置するのも一般的です。ですが、1個1個は違う議論をしているわけですから、基本目標2であれば、学べる機会についてはこんな意見があるといった記載があると、丁寧に感じられると思います。そうボリュームが多いわけではないので、単語を引用する形でもよいかと思います。事務局の作業になりますが、拾っていただけるとよいと思います。

事務局 評価として意見をいただいているところ、それ以外にもご議論のところを少し膨らませるような形で、全体の議論が見えるようにしつつ、基本目標1についてはこのような議論があり、その結果、全体的に寄与したものであるといった流れでつながるように、事務局で検討させていただきます。

西村議長

いろいろな目線でご意見をいただき、本当にありがとうございます。私は行政文書に慣れてしまっているの、気にしていなかったのですが、市民目線で考えてみるとそのとおりですね。市民の方に見ていただくという形になると、事務局にはご苦勞かもしれませんが、お願いします。その他いかがでしょうか。

清水委員

全体評価なので、基本理念と基本目標に関してどうだったのかとか、どこまで来たのかを最終的に知りたいなと思います。触れていないわけではなく、先ほど話題に上った「基本理念・基本目標及び事業目的の実現に寄与したものと評価する」の文章はありますが、どのぐらい寄与したのかと、どこがどうなのかという話をもう少し読み取れないと、全体評価ということにはならないという印象を、どうしても持ってしまいます。

「多様な学びと学びあいから 地域の人がつながり 藤沢の未来を創造する」。これは大きな話なのだと思います。ただ、基本目標1「「学びたい思い」を支援する」では、情報提供の拡充について、まだ課題はあるものの、従来型の広報紙などで、想定以上に伝わっている部分があるという意見があり、基本目標2では「藤沢らしさ」について、引き続き模索が続いているものの、地域資源を生かした学びの機会の多様化にはよく取り組まれているという話が出ていました。基本目標3については、いろいろな人とか主体、個人・団体が学び合う場は広がってはいるものの、そこから次の実践に活かすところに向けては、まだ課題があるという意見がありました。——これらを踏まえ、全体観として、理念と目標に紐付けたところがわかりやすい形で最後を締めてもらえると、とてもスッキリすると思います。パーツはちりばめられていると思いますが、そのような編集になっていないので、最後ぐらいは、このアイウエオと列記する形ではなく、理念と目標と構造に照らした整理をしてもらえるとわかりやすくなると思います。

西村議長

ありがとうございます。まとめ方をこの部分だけ少し変えるというご意見

をいただいたような形ですね。

清水委員 プランの21ページに照らして、この構造で書けばよいのではないか、ほぼそれだけです。

西村議長 (1)評価のイでは、84件という事業を非常に高く評価するという内容があるので、それを、その84件全部は書かないけれど、ある程度理念を反映しているということを言葉として入れる。今は箇条書きになっているものを文章にする形でまとめるのはいかがでしょう。イメージだけ持っているのですが、事務局はいかがでしょう。

事務局 特に事業全体に対する評価なので、ご意見のようにプラン理念の体系に対応するような形で、箇条書きの列記だけではなく、見出しをつけるなど整理をしながら、評価のまとめ方を検討したいと思います。

手塚委員 清水委員が言っていたように、「「学びたい思い」を支援する」のところを見て、こんなことを書いたらよいのではないかと思ったのですが、ここにも施策1「学習情報の収集・提供の拡充」と、施策2「学びのきっかけとなる機会の提供」とあります。これを使って文書を作ると、かなりしっかりとした評価の文章ができると思います。最終的には基本理念を頭に置いて、目標の「「学びたい思い」を支援する」、「学べる機会」を提供する」、「「学びあい」を創出する」、「「学んだ成果」を生かしつなげる」を活用していただくというのではないのでしょうか。このページの文章、言葉を使って、報告書案に書いてあるご意見と繋げると、よい文章ができるかと思うので、事務局はぜひ頑張ってください。

西村議長 ちなみにこのプランは、よその方からも高評価のようで、先日、お褒めの言葉をいただきました。この生涯学習ふじさわプラン2026の21ページ

のところは、言葉にもかなりこだわって作っており、前期では大変な苦
労もありましたよね。言葉をこだわりながら皆さんで論議してきたところ
なんです。なのでぜひ、これを前面に出した形で拾っていただけると、
事業全体に対する評価という部分が出てくるかなということです。事務局
にはぜひお願いします。

事務局

さまざまなご意見をいただきました。全体のまとめ方についても、最後
の総体的なところがありますので、ご意見を出していただいたように、プ
ランの各項目を拾いながら修正いたしますので、またご確認いただきた
いと思います。

西村議長

事前に見ておきながら、紙面で見ると新たに意見が出てきますね。
多々ご意見、お時間いただき、ありがとうございました。それでは、ここ
まで、一通り最初から議論してきたわけですが、何か言い残したお話が
あれば、お願いします。

小笠原委員

戻るようで申し訳ないですが、基本目標1の(2)ケの文章を、少し修正
した方がよいのかなと思っています。

プラン冊子の40ページに該当事業が載っています。「図書館における
学習支援」です。事業の目的、事業の内容を見ると、基本的には、資
料の充実や情報提供という内容が書かれています。それに基づいてケ
の文章を見ていただくと、「図書館では、学生も年配の方も非常に多く
来館する。席の順番待ちも発生している様子である」とのことですが、
要は、図書館にはさまざまな人が来ますし、たくさん来るから席が満員
ですねということを言っているのでしょうか。また、「学習支援について、
図書館に来る方が多いだけに、もっと具体的に支援体制を作るべきか
と思う。ただ本を見るだけではなく、学習したいというなら、学習するた
めの機器など、そのようなものがあってしかるべき。ただ新聞を読む、雑
誌を読むだけではなくて、もっとやるべきことがあると感じる」ということ
で、意図が伝わってこないかと感じましたので、提案です。「図書館に

は、子どもから年配の方まで、様々な年代の方が来館する。特に学生の来館は非常に多く、曜日や時間帯によっては席の順番待ちも発生しているようである」とします。その後は、「図書館における学習支援を掲げるのであれば、資料の充実、情報提供だけでなく、学習するための機器の充実や、学習するための場の充実を図る施策があってもよいかと思う。」というような文章をご提案したいと思います。

西村議長 聞いているだけで大変わかりやすい形かと思います。この文章に出てくる学習の機器というのは、要するに、パソコンなどのイメージでしょうか。

小笠原委員 これは私の発言ではないので、この発言をされた方の文章をある程度残そうと思い、そのまま入れておきました。私は、この機器とは何かかなと思いましたが、具体的にはあまり浮かばなかったです。むしろ、最後の「学習するための場の充実」というところで、近年、藤沢市にもたくさんのこども食堂ができているようですが、要はなにがしかの理由があり、そこでご飯を食べるのと同じように、やはり、今の子どもは1人1人が個室を持ち、家で勉強できるかという、そうでもないようです。図書館に行ってみるとわかりますが、本当にたくさんの学生が勉強しています。やはり家ではなかなか勉強できないという実態もあるかと思いますので、そういった意味で、しっかりとした勉強をする場の提供という内容を付け加えさせていただいたところです。この部分は私の意見です。「機器」については、ご発言された方がどういったイメージをお持ちなのかわからないので、詳細な代案は出せません。

西村議長 ありがとうございます。機器というのは、推測するに、いわゆるパソコンなどのことを言われているのかと思いました。

では、内容としては、小笠原委員が提案していた内容に対し、特に皆さんのご意見はないということによろしいでしょうか。

〔異議なし〕

その他ありますでしょうか。三浦委員お願いします。

三浦委員 前の資料も見比べながら、手元の資料を見ていました。本日の資料には載っていませんが、11月にいただいた資料の中、基本目標4「学んだ成果」を生かしつなげる」についてです。こちらには、今回の資料と同様に、ユースワークふじさわに触れている内容があるのと、六会人材センター事業と片瀬地区人材・情報バンクセンター事業についても、よい取り組みであると、ポジティブな内容として記載されています。しかし、本日の報告書には、具体的な事業名も含めて特に記載がないので、加えてもよいのではないかと思いました。本日の資料には載っていませんが、11月の定例会で、手塚議員のご発言として議事録に残っていた件です。

西村議長 では、これは加筆する形で大丈夫でしょうか。

事務局 この六会人材センターと片瀬地区人材・情報バンクセンターは、今回、報告書を整理させていただくにあたり、個別事業に関する記載として分類したものです。そのため、評価結果報告書の本体ではなく、参考資料に落とし込む形とさせていただきました。

三浦委員 補足ですが、ユースワークふじさわの個別名称が載っていること自体は問題ないと思います。

西村議長 イでは、「若者しごと応援塾(ユースワークふじさわ)」という形で載っていますね。

三浦委員 個別の事業でも、載っているものとそうでないものの差があるようで、少し気になったので言及しました。載っていることは問題ないと思います

が、そうであれば、両方を載せる方がすっきりするかと感じました。

事務局

ただ今のご指摘のように、イは事業のことを書いている意見ではありませんけれども、基本目標の理念を実現しており、全体に及ぶものと考えて、記載させていただきました。そのような経緯でしたが、方法として、具体的に事業という形だけでなく、同じように、こういった取り組みとして入れていくことも可能かと考えております。

西村議長

皆様のご意見はいかがでしょうか。

手塚委員

若者しごと塾と人材センター事業は、就業とボランティアで、それぞれ明確に違います。ただ、生涯学習の観点で言うと、いずれも、学んだ成果をしっかりと続けることですよね。なので、わざわざ事業名を限定せず「学んできたものの」から載せればよいかと思います。養成講座を受けても次に生かせない方もたくさんいらっしゃるので、そのような、全般的なイメージでもよい気がします。無理に事業名を入れると、なかなかよく回っていないとか、人が来ないとか、活動できる場所が探しきれないとか、いろいろな悩みの面も目についてしまいそうです。ただ、基本目標3と4は、仕組みを何とか根づかせないと難しい時代に入ってくると思うので、事業名を入れないで、内容部分のみで書けたらよいと思います。

事務局

基本目標4のイは、おっしゃったように、事業名を入れなくてもつながるかと思います。片瀬地区人材・情報バンクセンター事業と六会人材センター事業については、学んだことを発表する取り組みについてというような、一般的な話として、個別の事業を出さない形の中で記載できるかと考えます。

西村議長

保川委員をお願いします。

保川委員

1点だけ表現について、8ページの、事業全体に対する(2)課題提起のイですね。藤沢らしさとは何かという部分で「定義するのは非常に難しいことである」とあるのに対し、3ページでは「藤沢らしさについて、コンセプトをもう少しはっきりさせた方がよい」という柔らかい表現になっています。そうすると、この「定義するのは非常に難しいことである」という表現では、断定的すぎるのではないかと思います。定義自体を求めるのではなく、藤沢らしさの内容がもう少し市民にはわかりやすいようにした方がよいということで、定義自体、具体的には内容が出ていますから、「非常に難しい」というこの言葉を削除、あるいはもう少し柔らかい表現にしたらどうかと感じました。

西村議長

まず、7ページのところにもう1項目を入れるかどうかですが、それは先ほどの話だと、入れる方向ということで、皆様はよろしいですか。私は、若者しごと応援塾(ユースワークふじさわ)の事業については、個別評価ではあるものの、それを通して若者が活動の場を作っていくという要素があるとすると、事業名を入れた方がわかりやすいかと感じます。ですので、イのところは、言い方は少し直したとしても、事業名は入ったままでもよいのではないかなと思いました。事業名がないと、何のことを言っているかわかりにくくなると思います。やはり、若者たちがという部分が、大きなポイントだと思っています。皆様のご意見はいかがでしょうか。

三浦委員

よいと思います。イについては事業名を表記し、ウも新たに追加するとして、事業名は入れない形で表記してもよいと思います。整合性が取れなくても、構わないと思います。

西村議長

「ウ」は、事業名は入れなくても話が通じますからね。イについては、やはり若者しごと応援塾(ユースワークふじさわ)の1つの大きなポイントは、

若者を支援するということだと思うので、事業名ではありますが、事業を通して若者を——という形で入れた方がよいかと思いますが、そのような形でよろしいですか。

では続いて、保川委員からご意見があったところです。藤沢らしさについて、皆さんで議論というよりも、市民にわかりやすい藤沢らしさを今後、考えていく必要があるという表現ですね。私達自身がプランを作っている中で、その「藤沢らしさ」という言葉はいつも出てくるし、藤沢市の事業プランの中にもたくさん藤沢らしさとあるので、そういった意味で、今後やはり市民にわかりやすいようにしていく場が必要である、討議していく場が必要であるといった形ではどうでしょうか。この会議の宿題、課題も含めてという形になるかと思います。

〔異議なし〕

その他いかがでしょうか。それでは、たくさんのご意見をいただきました。

事務局

本日の資料としては、委員の皆様のご意見、ニュアンスを損なうことがないように、ご発言をほぼそのまま記載させていただいております。もちろん、そのままでは通じづらいと思われる部分は修正させていただいておりますが、基本的には、ご発言のままで掲載しています。その中で、本日、報告書としての文体など、ご指摘をいただいたところでしたので、修正してまいりたいと思います。

西村議長

事務局としても、委員の皆さんの意見をできるだけ生かそうと、気を付けていただいているかと思います。報告書としての体裁も含めて、皆さんから受けたご意見ですから、事務局にはもう一度汗をかいていただいて、よりよい形にできるかと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、こちらにつきましては、後日また直したものをお送りしますので、皆様でお目通しいただきたいと思います。データでは少し見にくいですが、もう一度紙で見ているつもりで読んでいただいて、またご意見等いただければと思います。報告書については、今日の会議で議論し

ていただきましたが、報告書のデザインとして、そのようにまとめてさせていただく形でよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

ありがとうございます。それでは続きまして4「報告」に移りたいと思います。委員の皆様から特にありませんか。

ないようですので、5「その他」に入りたいと思います。委員の皆様からその他、何かご意見等あればお願いいたします。

それでは、事務局から説明事項がありますので、よろしくお願いします。

事務局

それでは事務局より、令和7年度第56回関東甲信越社会教育研究大会神奈川大会分科会における事例発表についてご説明させていただきます。資料2をご覧ください。

「関東甲信越社会教育研究大会」につきましては、関東甲信越静地区の社会教育関係者が一堂に会し、社会教育に関する記念講演、シンポジウム、事例発表などが行われるもので、令和7年度は平成26年度以来、11年ぶりに神奈川県で開催されます。同大会は令和7年11月20日、21日の2日間にわたり、横浜市において開催され、このうち、2日目の21日には、神奈川県内から5市町村、神奈川県外から5市町村、あわせて10市町村が、2市町村ずつ5つの会場にわかれて事例発表を行います。

この度、神奈川県の発表につきまして、県社教連のローテーションにより、藤沢市が担当することになりました。発表テーマにつきましては、「～次の世代につなぐ持続可能な社会～予測できない未来に向け、持続可能な社会の担い手を育成するために社会教育ができることを考える」となっております。これらを受けまして、藤沢市の発表について、西村議長、三宅副議長、過去に同大会への出席経験がある稲川委員、事務局で検討した結果、「認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構」が行っている「地域でつながるワカモノ×NPO インターンシッププログラム」を発表テーマにしたいと考えました。

このプログラムにつきましては、高校生から大学院生までのワカモノが約半年間、地域のNPOでインターン生として活動し、様々な経験を経て、社会で活躍できる力を身に付けるものでございます。このプログラムの運営体制や成果などについては、県内外に対し幅広く展開していくべき好事例と考えており、今回の機会を捉えて、ぜひ事例発表を行ってまいりたいと考えております。

西村議長

案として事務局から示していただきましたが、先般から皆様にもお伝えしていますように、来年度は神奈川県で開催ということで、来年度はちょうど研究発表大会のような形で開催される予定です。来年はこの発表およびそのリハーサルを兼ねた研究大会、そして本番は関東甲信越ブロックの大会になります。藤沢独自で講演会を開くとか、そういった形ではありません。

いろいろと検討したのですが、社会教育委員として、社会教育の中で、特に若者という部分に着目しました。というのも、前任でいらした西尾委員が、VOLUNTEERSという資料をよく配ってくださっていました。これは若者が作る、若者向けのボランティア事業を紹介する内容で、これが非常に素晴らしいので、まさに基本理念の中で謳っている「多様な学びと学びあいから 地域の人がつながり 藤沢の未来を創造する」に合っているかなと思い、手塚委員にお話をお聞きしました。すると、藤沢にとどまらず、県内、あるいは海外にもという形で、ここ藤沢で学んだ人たちが飛び出していっているそうで、まさに分科会の「次の世代につなぐ持続可能な社会」、それと若者支援という形で、ぴったりではないかと考えているところです。VOLUNTEERSの中身について、手塚委員からお話しいただいてよろしいでしょうか。

手塚委員

前期では、西尾が大変お世話になりました。西尾が中心となって、このVOLUNTEERSという冊子作成と、インターンシッププログラムの2つを実施してもらっています。

VOLUNTEERSは、実は市民活動推進センターで作っています。セ

ンターは、老若男女、90代のボランティアさんから10代のボランティアさんまで、たくさんの方にお使いいただいています。その中で、VOLUNTEERS自体は、高校生をメインターゲットに作り出した冊子です。シニアの方へのボランティアはいろいろと情報があるのですが、高校生向けは、なかなかなかったものですから。

これは藤沢市民向けに作っているものですが、中身を見ていただいてもわかるように、若い人向けに、取材をしています。ただ、インターンシッププログラムそのものは、最初にはトヨタ財団さんから、イニシアティブプログラムという形で、10年ほど前に声をかけていただいたものでした。2年でその事業は終わったのですが、とてもよいプログラムでしたので、独自の財源でやろうということで、これは機構の仕事として続けさせていただいています。最初は大学生から大学院、30代、20代の若者までという枠組みでやっていましたが、折角入学した高校や大学を退学する学生がいることも見られる時代背景から、将来を考えだす年齢に対象年齢を下げた実施しています。

高校生向けには、実はもう1つプログラムがあって、NPO 見本市というものです。学校の体育館に行って、ボランティアをしている人たちにキャラバン隊を作ってもらって、ワークショップをします。各1坪ほどのブースを配置して、スタンプラリーのようにしっかりと体験してもらいます。インターンシッププログラムとVOLUNTEERS、そして NPO 見本市の3点セットですね。そのキャラバン隊の団体の方は大変かと思いますが、今年はおかげさまで、藤沢総合高校で実施できたので、とても良かったです。中学校もターゲットにしていたので、少し前ですが、村岡中学校と第一中学校、それから秋葉台中学校でもやったことがあります。

若い方に、世の中には物好きなおじさん、お婆さんがたくさんいることを見せることで、この人たちに支えられている部分があるんだ、お母さんやお父さんや先生だけじゃないんだということを感じていただくプログラムにしているので、感受性が豊かな高校生であれば、受け止めてくれるかなと思って実施しています。最近では、中学校は校長会にもなかなか参加できないので、高校を中心にしています。

インターンシッププログラムは、先述の理由もあり、今のところ高校生が

メインターゲットです。自主的に手が挙げられる人たちに来てもらっています。動員をかけるのではなくて、広報を出して、そこにヒットした子どもたちが集まってきます。私学の先生方が興味を持ってくださることもあるので、まず先生にアプローチすることもあります。

そして、参加した皆さんは、半年ほど活動をしします。先ほど海外にもという話もありましたが、青年海外協力隊に行った子がいたり、東北の震災直後、関東に避難してきて、そこで大学に通い、いろいろ悩んだけど、仙台に戻りたいと言った子がいたり、お金持ちになりたいからいろいろなことを知りたいと言った子が、なぜか商工会をきっかけに、中間支援にとっても熱中して、商工会議所の職員になるとか、いろいろなパターンが出てきています。それと、高校生で入った子で、いろいろ勉強したけど、海外の事例を知りたいと言って、アメリカの大学に行くことにしたという子もいました。日本の高校は年度が4月から3月で、アメリカは9月始まりですから、6ヶ月の間が空きますよね。そこで私どものボランティアをしていただきました。このように、様々なパターンがそれぞれ出ています。

最近ではN高などもありますが、通信高校に通っている子たちも興味を持ったようで、以前は定時制の子どもたちがそうでしたが、どこかレールに乗り切れない子どもたちも来るし、しっかり乗って大学に行ったけれど、つまらないという子もいて、いろいろなパターンの子が来るような様子です。少しずつ、おじさん、お婆さんの、今までの地域を支えてきた力を何とかバトンタッチができるような子たちです。また、受け入れに当たり、その団体に入りなさいとは、絶対に言わせないようにしています。入りたければ入ってもよいけれど、そのまま通過してくださいという言い方をしています。なので、その子たちが新しい活動をするということが出てきています。10人ぐらいしか面倒を見られないので、少しずつですが、15年ぐらい経ってやっと成果が見えてきたかなというところです。

さて、今回の件について、担当している西尾から発表してもらえないかと相談したところ、委員の皆さんもよろしいということであれば頑張りますということでした。どうぞよろしくお願いいたします。

西村議長

この案のとおり進めさせていただきたく考えておりますが、ご了承いただけますでしょうか。

[異議なし]

社会教育委員としての発表になりますので、発表にあたってはまた皆さんにもご協力いただきたいと思います。資料を配って講演会という形よりも、実演的なものがよいかと思っておりますので、例えばビデオレターを入れるとか、それからインタビュー形式など、手塚委員が喋ってくれた熱い思いが伝わるような発表の形も、これから考えていきたいと思います。その際には皆様にもご協力いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。では、手塚委員、そして西尾さんにはご苦勞をおかけしますが、よろしくお願いいたします。また打ち合わせをそれぞれいただきたいと思います。

では、最後に、次回の定例会の日程につきましてお願いいたします。

事務局

次回定例会につきましては、当初予定していた2025年2月17日の月曜日が県社教連の会議と重なってしまいましたため、2025年2月10日月曜日午前10時から正午までの開催に変更させていただきます。ご承知おきますようお願いいたします。委員の皆様には、定例会の概ね2週間前に開催通知と本日の議事録をメールでお送りいたします。その際に議題や会場等につきましてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。その際、議事録にお目通しいただき、修正箇所等ございましたら、2月6日までに事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

西村議長

それではこれで12月の定例会を終了いたします。今回も議事の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

***** 午前11時40分 閉会 *****